

日本財団補助金による

1997年度財団法人日中医学協会助成報告書

— 学術交流に対する助成 —

1997年6月12日

財団法人 日中医学協会
理事長 中島章殿

報告者氏名 小野 博志
所属機関名 東京医科歯科大学
職 名 名誉教授
所 在 地 〒113 東京都文京区湯島 1-5-45
電 話 03-5803-5540 内線



◎添付書類：講演集・シンポジウム写真等学会に関する資料

学会・学術交流の名称 第35回日本小児歯科学会学術大会および総会
テ ー マ 小児歯科学
主 催 団 体 日本小児歯科学会
代 表 者 祖父江 鎮雄
期 間・開 催 地 1997年5月23日・24日 東京(東京有明・東京ビッグサイト国際会議場)
招へい・派遣目的 1994~1996年度文部省国際学術研究大学間協力研究から得た中国人双生児資料を用いた共同研究成果の一部の発表と仲間の小児歯科学の交流、さらに収集した双生児資料を基にした今後の研究課題と双生児調査に関する検討

I. 招へい・派遣研究者 人数 1人

1) 氏 名 (漢字) 鄧 輝 英文名 DENG HUI 男 女
所属機関、職名 北京医科大学口腔医学院 教授 生年月日 1937年4月28日
所在地 中国北京市海淀区魏公村
電 話 8610-2179977 内線 306
研究課題 日中双生児の歯列・顎顔面頭蓋の成長発育に関する比較研究

II. 滞 在 期 間 自 1997年5月21日 至 1997年5月26日 (6日間)

III. 助成金の使途内訳

助成金額 250,000 円
交通費 125,400 円 宿泊費 106,920 円 食 費 85,980 円
雑 費 2,550 円 他 14,000 円

・招聘・派遣研究者記入欄が不足の場合は別紙を添付して下さい。

IV. 主な滞在日程

第1日	5月21日(水)	北京発 CA925 成田着 13:50 18:00~20:00 小児歯科学教室歓迎懇親会
第2日	5月22日(木)	東京医科歯科大学歯学部小児歯科学講座において、 (午前) 学術講演「中国の小児歯科の現状と将来」 (午後) 双生児研究成果の検討、研究打ち合せ
第3日	5月23日(金)	第35回日本小児歯科学会学術大会(東京有明、東京ビッグサイト)へ出席。 日本小児歯科学会会長 祖父江鎮雄教授と懇談 18:00~20:00 大会懇親会において挨拶 第35回日本小児歯科学会学術大会会長 赤坂守人教授と面談
第4日	5月24日(土)	第35回日本小児歯科学会学術大会出席 共同研究発表 A-2-11
第5日	5月25日(日)	東京医科歯科大学歯学部小児歯科学講座において 双生児研究班会議出席
第6日	5月26日(月)	成田発 CA926 14:55発 北京着

宿泊(自5月21日夜~至5月26日朝) 山の上ホテル(東京都千代田区神田豊河1-1)

V. 学術交流報告

我々の学術交流は、貴協会の学術交流助成を得て下記の通り期待していた成果を挙げる事ができた。まずもって御礼を申し上げたい。

今回の学術交流の主目的の第1は、1994年より3年間にわたって続けられた、文部省国際学術研究、大学間協力研究によって収集できた種々な中国人双生児調査資料を用いて、共同研究として、あるいは各校研究として今後行なう課題と、今後の調査について意見を交換することにあつた。

このことは主に、5月25日の双生児研究班会議において討議された。まずは、今後の研究遂行にあたって、当初計画されていた調査資料とその保管担当の見直しが必要となり、論議の末、改めて合意がえられた。これに基づいて、共同研究としては、すでに口蓋形態、顔面頭蓋形態について行なってきたので、当面歯の形態を課題とすることが決まった。各校の課題については、意見の交換の中から、またこれまでの研究実績を踏まえて各自決めることとした。今後の調査については調査費申請準備など前向きに検討することとした。

第2の目的は、第35回日本小児歯科学会学術大会に出席し、これまでの調査研究成果の一部を共同発表すると共に、日本と中国との小児歯科学の交流を深める機会を得ることにあつた。

このことは、2日間にわたる学術大会に出席し、とくに語学の壁が少なくすむ80題におよぶ展示発表、27題のテーブルクリニックにおいて交流がなされた。この間、各歯科大学、歯学部の小児歯科学講座教授と面談し、ことに、日本小児歯科学会会長の祖父江鎮雄教授と懇談する機会を得たことは有意義であった。

また、学術大会の懇親会の席上、特に挨拶する機会を与えられ、英語ではあつたが、日中の学術交流について期待と抱負を述べる事ができたのは有意義であった。

東京医科歯科大学小児歯科学講座と北京医科大学口腔医学院小児歯科学講座との間の学術交流は、新任の高木裕三教授と鄧輝教授との間で、従来同様深い友好関係を継続していくことが話し合われた。